

トビタテ選考体験記（17期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：国際人間科学部 子ども教育学科

学年：4年（応募時）

【トビタテ応募前】

私は海外インターンシップを行う私費留学をする予定だった。そのため、私費留学でも応募可能で返済不要の奨学金を探していた時に、トビタテ以外にめばしいものが無かったので、応募した。また、以前からトビタテのコミュニティが素晴らしいと聞いていたので、コミュニティに入りたいと思っていた。トビタテ応募前にオンライン説明会に参加した。OBOGさんの話を聞いていると、各界で自分の目標に突き進んでいる方が多く、コミュニティの質の高さを実感した。

【トビタテ応募にあたり（書面審査対策）】

私はキャリアセンターの個人面談を何度も活用した。そこでは、毎週キャリアコンサルタントの方と一緒に書類を作り直した。相手に簡潔に伝わるように何度も指導してくださった。書類を作る際に参考にしたのは、トビタテ OBOG さんが note や YouTube などネットでネット上に出している情報だった。

自分の留学の目標を明確にすることで、留学計画をブレないようにした。目標に沿うように、留学計画を綿密につくり、短い言葉で伝えられるようにした。自分の伝えたい内容が大まかに決まっていたので、生成 AI を使って要約してもらうことで簡潔な文章をつかった。トビタテの募集要項に沿うようにすることも意識した。

自由記述に関しては、Canva を使って、見た目も見やすいように意識した。留学計画では書ききれなかった、自分のバックグラウンドやアピールポイントを詰め込んだ。

【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

① 17期生のコミュニティに入る

LINE のオープンチャットで 1 次審査を突破した人たちのコミュニティができていた。そこに入ることで、グループディスカッションの対策を行った。他の候補者の計画を知ることができる機会になる。これで自分と候補者を比較して自信を無くしてしまっただけでは本末転倒だが。

② 神戸大学のトビタテ対策会に参加

この会で知り合った候補者と一緒にプレゼンに磨きをかけた。私的には、これが一番精神的な支えになった。留学計画を一人で磨きをかけるのは至難の業。しかし、いろんな人からアドバイスをもらえばもらうほどよくわからなくなって、迷走しがち。そんなときに、悩みを吐き出せて、同じように頑張っている仲間がいたことはとても心強かった。また、1 か月ほど一緒に作業していたため、迷走しても原点に戻らせてくれる有難い存在だった。本当にありがとう！

③ 留学計画のパワポづくり

自分の伝えたい内容が伝わりやすいように、スライドは文字少な目で一目見てわかりやすいようにした。自分がどんな留学をするのか覚えてもらうために、何度も同じようなキーワードを使うことを意識した。私は A3 のスケッチブックにスライドを印刷して紙芝居のような感じのものを作った。本番はパソコンの画面で挑んでいる人もいた（その人は合格している）。

④ 留学計画

本番は何分で説明してくださいと言われるか分からなかったため、3 つの時間で説明できるように準備した（3 分、5 分、8 分）。実際は、個人面接：好きなだけしゃべる グループディスカッション：3 分だった。

提出した書類の内容を説明した。留学計画説明は、キャリアコンサルタントの個別面談や、教育関連の企業との会話、17 期生が企画したオンライン対策会に参加することで、完成度を高めた。全ての意見も吸収しすぎるとよくわからない説明になってしまう。そのため、取り入れる意見と取り入れない意見の取捨選択をする。自分の軸を見失わずに、伝えたいことが伝わるプレゼンを目指す。たとえ、プレゼンに入りきらないアドバイスでも、質疑応答の時に深く聞かれるときに活かせることも多々あるので、自分の頭の中にとどめて考えておくといいかもしれない。

【本番前】

「もうどうにでもなれ」と思えるくらい練習して準備しておくことで自信をもって挑むことができると思う。候補者は尖ってなんぼなので、周りがすごく見える。しかし、自分は自分！自分の熱意を相手に伝えるだけ。書類審査を通った時点で計画内容は認められているのだから、あとはもう相手に自分の心と体で伝えるだけ。

【本番】

1. 個人面接について 40 分

面接官

- ・企業の人（結構メインで質問。アメリカについて詳しかった。海外駐在経験あり）
- ・トビタテ OG（質問数は少ないけど鋭い質問をしてくる）

質問内容

- ・そもそもの自分が日本に対して抱いた課題意識の要因について詳しく聞かれた
- ・自分が立てた課題解決に対する仮説についても詳しく聞かれた。実際にそのような研究はあるのか？など。
- ・留学計画とあなたの強みを教えて
- ・他にもたくさん教育系の候補者がいるけど、その人たちとの違いは何？
- ・チャレンジングな課題解決だと思うのですが、そこについてはどう思っていますか？

結構クリティカルに質問された。教育系ということもあり、質問がしやすいジャンルではあった。自分の他にも教育系の候補者が沢山いる。その中で、その人たちとの違いが何なのかをしっかりとと言えることが必要だと思った。私は、教員ではなく、企業側から教育改革をしていくということで差別化をはかった。

面接官が自分よりも留学先について詳しかった。そのため、質問内容やアドバイスに自分が答えきれない場面があった。そんなときは、「ぜひ留学計画に入れ込みたいと思います！ありがとうございます！」というようなスタンスでいった。私は、無駄にバトルせず、黙り込まず、相手からの新しい視点を取り入れさせていただくスタンスだった。他の合格者の中には圧迫面接もあったそう。面接中は大号泣だったが合格したそう。

一次審査の紙はほとんど見られていない感じだった（数分前まで別の受験生の対応をしているから直前は見る暇も無さそう）。自分のプレゼンを聞いて、メモをして質問をしてくる。

2. グループ面接について

メンバー4 人

試験官 1 人

他のグループは6人だったため、自由会話時間がたくさんあった。自由会話時間は何を話してもいいが、それぞれの発表の共通点などからトークテーマを決めると、みんなが会話に参加できていい感じがした。3分間で発表は切られるから、ちゃんと事前準備するべき。

自分が勝ちに行くというよりは、みんなのアイデアを更に良くする心持ちで取り組む。自由会話時間に「それぞれの分野の知識を掛け算して、帰国後に日本でどう行動するのか？」という深掘りを行った。その時は、グループ全員が楽しそうにみんなの計画について考えていたし、トビタテならではの良さを感じることができた。自由時間は審査員の方も一緒にディスカッションに入れても良かったかなと思う。

グループの中で自分がどんな立ち回りをするのかを考えて臨機応変に対応することが大切だと感じた。

【最後に】

私は交換留学ではなく、インターンシップ留学で応募した。書類審査で提出していたインターンシップ先の選考に落選したにもかかわらず、トビタテの書類審査は合格した。そのまま2次審査には、インターンシップ先は見つからないまま挑んだ。仮の小学校をインターンシップ先に掲げた。不安だったが何とかなった。そして、30校以上の教育機関に個別でメールした結果、インターンシップ先を見つけることができた。私以外にも、留学先が確定していないまま審査を受

けている人もいますので、留学先が確定していなくても大丈夫です！トビタテに合格した後の壮行会などで見つかる人もいらっしゃるようです！後で変更はききます！

大事なのはあなたの熱意と、それを審査員に伝える力と自分を信じられる準備だけ。

トビタテを受けようか迷っていたり、交換留学以外で留学がしてみたいと思っていたりした際には、いつでも連絡してください！国際交流課の方を介して繋がれると思います！